

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立瑞穂野南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 21人

② 算数 21人

5 留意事項

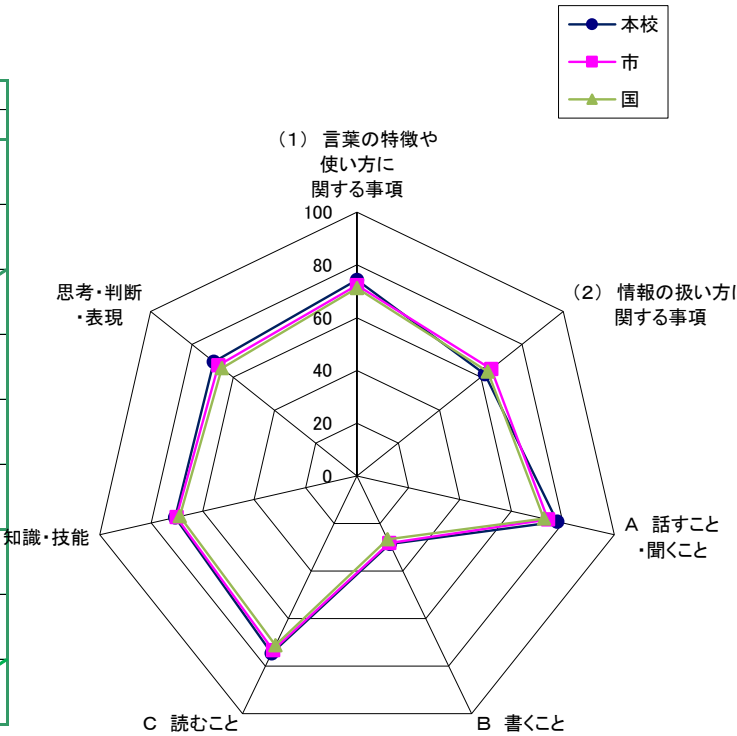
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立瑞穂野南小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	74.3	72.3	71.2
	(2) 情報の扱いに関する事項	61.9	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	77.8	74.2	72.6
	B 書くこと	28.6	28.2	26.7
	C 読むこと	74.6	73.3	71.2
観点	知識・技能	70.7	70.2	68.9
	思考・判断・表現	69.4	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

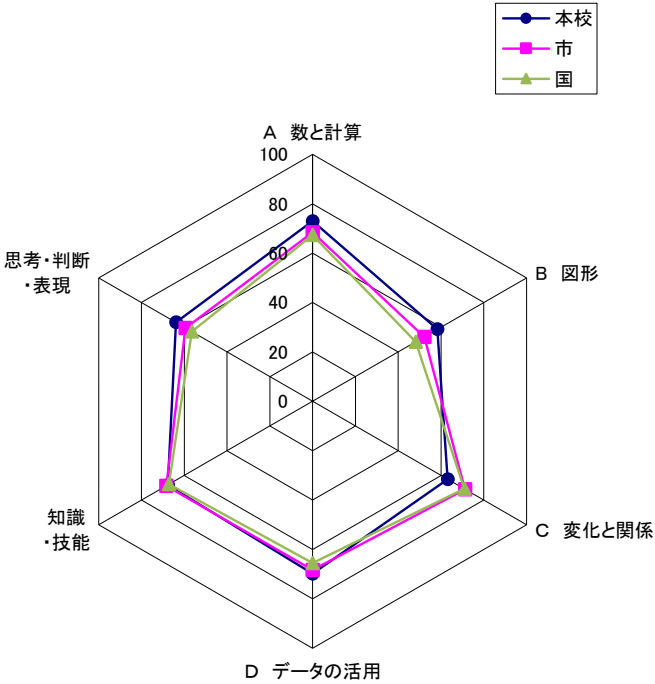
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	平均正答率は市や全国より高い。 ○敬語の使い方についての設問の正答率が市や全国の平均正答率を大きく上回っており、約20ポイント高い。 ●漢字の読み書き問題については、正答率が高い設問も低い設問もあり、ばらつきが見られた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・既習漢字に関しては、家庭学習等で漢字練習に取り組ませたり、小テストを行ったりして理解を深められるようにする。
(2) 情報の扱いに関する事項	平均正答率は市や全国より低い。 ●原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかを見る設問では課題が見られた。	・自分自身の体験や、見たり聞いたりしたことのある出来事について、原因と結果の関係が分かるように文章で表す学習活動を設けるようにする。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は市や全国より高い。 ○必要ことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることについての設問では、正答率が市や全国の平均正答率を大きく上回っている。	・意見を発表したりプレゼンテーションを行ったりする学習で、普段から話合いの後に学んだことや自分の考えなどを伝え合う機会を設けるようにする。
B 書くこと	平均正答率は市とほぼ同じで、全国より高い。 ○図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することについての正答率が、市や全国の平均正答率を上回っている。	・書くことに関しては、日記指導や意見文など、自分の考えを効果的に書く指導をしていく。その際に、考えの根拠や理由をもとに意見を述べることを意識させたり、相手意識をもたせたりすることで、説得力のある文章を書くことができるように指導していく。 ・書いたものを、お互いに読み合う活動も取り入れ、様々な意見文や感想文に触れられるようにする。
C 読むこと	平均正答率は市や全国より高い。 ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる設問では、市や全国の平均正答率を大きく上回っている。 ●目的に応じて、文章を図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つける設問の正答率が、市や全国の平均をやや下回っている。	・本校独自の「よむよむ貯金」による読書の推進や記録の蓄積により、様々な文章にも触れることができていると考えられるので、今後も多様な分野の文章に触れることを推奨していく。 ・国語の授業の中で、資料から必要な情報を見つけそれを文章で表したり、その文章を児童間で交流し読み合ったりするなどの学習活動を積極的に取り入れていく。

宇都宮市立瑞穂野南小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	73.0	68.4	67.3
	B 図形	58.3	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	63.1	71.2	70.9
	D データの活用	69.8	68.3	65.5
観点	知識・技能	67.7	68.4	67.2
	思考・判断・表現	63.9	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は市や全国より高い。 ○一の位が0の2桁の乗法を計算する設問では、平均正答率が90.5%と高い。 ○場面と関連付けて式を選ぶ設問や場面から立式し、その結果をもとに条件に当てはまるかを判断する設問では、県の平均正答率より11ポイント以上高い。 ●除法の筆算について、図を基に商の意味を考える設問では課題が見られる。	・日常生活の場面から算数の問題を見つけ、既習の計算を活用して解決する応用問題を解くことで、計算の仕方についての習熟、発展を図る。 ・日頃から数の仕組みを意識して答えの大まかな値を予想させることで、計算の仕方だけでなくその意味についても理解できるように指導していく。
B 図形	平均正答率は市や全国より高い。 ○高さが等しい三角形の面積の大小を判断し、その理由を説明する設問では、県や国の平均正答率を大きく上回っている。 ●性質をもとに図形の名前を答える設問では課題が見られる。	・公式を活用した問題演習を定期的に行い、さまざまな図形の面積の求め方について復習の機会を設定することで、より確実な定着を図る。 ・図形の構成要素に目を向けて仲間分けをする学習活動を設定することで、図形の性質についての理解を図る。
C 変化と関係	平均正答率は市や全国より低い。 ○比例の関係になっていないことを説明するために表から適切な数値を抜き出す設問の平均正答率は高い。 ●伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り空いている数字を求める設問や、比例の関係であることを用いて答えの求め方を式や言葉で説明する設問では、県や国の平均正答率より10ポイント以上低い。	・反比例についての学習では、比例との違いを考えさせることで比例の関係についての復習を行う。 ・伴って変わる2つの数量の関係を見つけ、式に表し、それを使って答えを求めるという問題に取り組ませることで、2つの数量関係を活用して問題解決する力を育成していく。
D データの活用	平均正答率は市や全国より高い。 ○2つの棒グラフを比較し、見いだした違いを言葉や数を用いて説明する設問では、県や国の平均正答率より10ポイント高い。 ●二次元の表から条件に合う数を読み取る設問では課題が見られる。	・他教科でも、グラフから分かったことを基に自分の考えを説明する活動を設定し、必要なデータの特徴や傾向を読み取り活用する力の育成を図る。 ・二次元表の読み方を復習し、表の中でそれぞれの数が示していることを説明する時間を設定する。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「5年生までに受けた授業でPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の質問に対して「ほぼ毎日」、「週3回以上」と回答した児童の割合は90.5%と、県や全国の割合を28ポイント以上上回っている。また、「学習の中でPC、タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の質問に対して「役に立つと思う」と回答した児童は90.5%と県や全国の割合を18ポイント以上上回っている。児童が学習の中でICT機器を活用する良さを理解していることは、普段の学習の中で、児童がICT機器を活用し、様々なツールを使って課題解決をしてきた成果と考えられる。今後もICT機器を友達との意見交換や自分の考えをまとめる場面で活用し、学習内容の充実を図る一助としていきたい。

○「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問に「当てはまる」と回答した児童の割合は57.1%と県や全国の割合を22ポイント以上上回っている。また、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問に「当てはまる」と回答した児童の割合は61.9%と、県や全国の割合を19ポイント以上上回る結果となった。児童が課題解決へ向け、意欲的に取り組んだり、話し合いで自分の考えを深めたり広げたりすることができているのは、本校が総合的な学習の時間に力を入れ、指導してきた成果と考えられる。この力は他の教科の学習にも通じるものがあるため、引き続き課題解決、提案型の総合的な学習の時間に力を入れるとともに、他の教科でも児童一人一人の考えを尊重しながら授業を展開し、児童が主体的に学習に取り組めるようにしていきたい。

●「学校の授業時間以外に、普段、1日あたりどれくらいの時間、読書を読みますか」の質問に対して「10分以上、30分より少ない」と回答した児童が70%以上と、県や全国の割合と比較して8ポイント以上下回った。本校独自の取り組みである「よむよむタイム」(家庭読書の推進)や学校における読書活動をさらに充実させていくことで、児童の読書時間の増加につなげていく。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 (第6学年)
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本の定着を図る取組	朝の活動において「がっちり学習」として、全学年2人体制で、基礎的・基本的な内容の問題に取り組む活動を実施している。また、授業においても、前学年の内容を振り返り、定着が図れるようにしている。	国語の知識・技能、思考・判断・表現の観点別の正答率が、市や全国の平均正答率を上回った。算数の思考・判断・表現の観点別の正答率が、市や全国の平均正答率を大きく上回った。
家庭学習の習慣化に向けた取組	3～6年生では家庭学習ノートを用いた自主学習を学年に応じた目標時間取り組むように指導している。また、年に2回「家庭学習強化週間」を全学年実施して、家庭との連携を図っている。	自ら学習に取り組む態度に関わる「家で、自分で計画を立てて勉強している」の設問で肯定的な回答した児童の割合は9割以上と市の平均を大きく上回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
伴って変わる2つの数量の関係を見つけ表したり、図形の性質について理解したりすることに課題が見られた。	基礎的・基本的な学習内容の定着とそれに基づく知識の理解の質を高める取組	・朝の活動において、宮っ子学カステップアップシート等を活用した復習に取り組み、学習内容の定着を図る。 ・立式の意味を考えたり、授業内容を日常生活と結びつけたりするなどして、より深い理解につなげられるようにする。